

極樂寺

〔同街田中社の南、東方にあり。本尊阿弥陀仏、鑑真かんしんの作、長三尺許。脇土焰魔王、地藏尊。深草極樂寺の

旧号を以てこゝに再建す〕

十王堂

〔門の外南にあり。本尊は焰魔王えんまにして、十大王を安置す。此南の町に弘法大師の掘らしめ給ふ井あり、其時

の土を以て十王を作り給ふとぞ〕

稲荷山

〔枕草紙まくらざうし云、いなりにおもひをこしてまいりたるに、中のみやしろのほとわりなくくるしきをねんじてのぼ

る〕

壬二集

稲荷山杉の庵の明ほのに窓よりかよふさほ鹿の声

家 隆

家 集

独のみ我越えなくに稲荷山春の霞の立かくすらん

貫 之

稲荷御神詠

続古今

われ頼む人のねがひをてらすとて浮世にのこる三つの燈

〔これは稲荷大明神の御歌となん〕

稲荷坂

〔新熊いまくまより稲荷三ツの峯へ詣ずる道あり、今車坂くるまざかといふ。是いにしへの順路なり。稲荷行幸の車此道を経ると

ぞ。田中社もいにしへ此道にあり」

堀川百首　をそくとく宿を出つ、いなり坂のぼればくだるみやこ人かな　兼　昌

〔異本応仁記云、文明三年醍醐山科は三宝院の御領分なれば、合力として赤松、武田相扣へたり。こゝに目附に多賀豊たがぶん後守高忠このかみたかたゞが従者骨皮左衛門尉道源、山科より稲荷山へ打越、社務羽倉出羽守と示し合せ、山上の社に陣を取る。伏見、木幡こばた、藤森ふちのもり、三栖みす、深草ふかくさ、淀よど、竹田、鳥羽とば、法性寺小路まで目の下に見おろしありければ大略郷人降参しける〕

還坂かへりざか　〔是稲荷坂の別名也。花山法皇、清少納言など此道より三ツが峯へ詣給ふ事旧記に分明なり〕

〔閑居友云、ちかごろいなりのかへり坂の岸のうへに、あやしのこもひとつうちしきて、としいとおひたる入道たゞひとりゐて、西にむかいてゆふ日をおがみさめぐとなくあり〕

〔定家卿文書云、法性寺俊成卿御廟山林の事、ひがしは上のいなりのかへりざかのとをり、南への谷をかぎりてなり、北はいなりのかへりさかのみちをかぎりてなり〕

〔扶桑略記云、浄蔵貴所稲荷山に居して、護法形を隠して花を採水を汲。真言伝云、稲荷山僧正峯は権僧正壹演行ひ給ひける跡となん申伝侍る。社家説云、今山間に神座の跡あり、これを御前の溪といふ。此溪の北に岩あり、雷岩となづく、むかし神僧あつて雷を咒して此岩間に縛すとなり。又房崖ぼうのきしといふ所あり、いにしへの僧房の址ならんか〕

筈池こたまがいけ　〔本社よりひがし五町許にあり、筈こたまの名詳ならず〕

歌 枕 池の面にかけをうつさば稲荷山みつの御垣に波やたつらん

○〔次下は稍荷山を越て、東の麓山科郷、西の山より栗栖野、小野、観修寺を経て、花山より北に至る〕